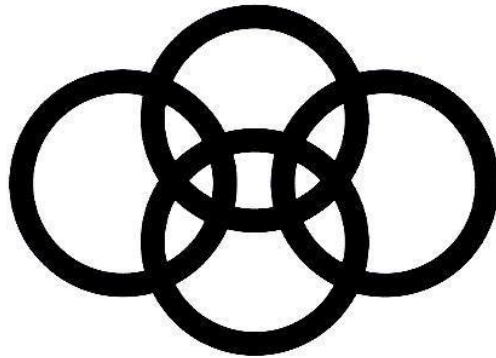


令和8年度

# 運営に関する計画



大阪市立四貫島小学校

## I 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校は大正8年(1919)に創立し、100年を越える歴史と伝統に支えられた学校である。校訓にある「明るく 仲よく 健やかに」育てて欲しいという保護者や地域の方々の強い願いや、教育に対する熱き思いが基になって、先駆的な四貫島の教育が今も昔と変わらずなされている。従来よりICT教育、道徳、外国語活動など率先した学習指導を行っており、また、創立以来、本校には子どもを中心に据えた教育を学校・保護者・地域が連携して脈々と取り組んできた伝統がある。その伝統を受け継ぎ、学校・地域を愛し、わが学校・わが地域に誇りをもてる子どもを育てていくことが本校の使命であり、大きな課題と捉える。

特に、一時期児童数が減少していたが、選択制の導入に伴い児童数が増してきたことで、教職員数も増加傾向であり、教職員の年齢層が若手に偏るという現象が急速にすすんでいる。また、選択制により児童が増えるという選ばれる学校であることは、喜ばしいことであるが、四貫島地域外からの家庭の増加である等、社会情勢の急速な変化とともに、子ども中心に据え、学校・保護者・地域がいかに連携し育てていくか、連携の仕方の難しさに直面していることが大きな課題である。

そこで、本年度「四貫島小学校の教育を継続し、深化させる」をスローガンに、取り組む内容の方向性を次にまとめた。

- ① 一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、学校生活を楽しみ、共に学び、共に育ち、共に生きることの素晴らしさを経験させる。
- ② たくましく育つ環境を整え、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け、生涯にわたって能動的に学び続ける資質・能力を育成する。

学校は、「ある」ものでなく「つくる」ものとし、「みんながつくる みんなの学校 四貫島小」であり、「みんな=自分」として、「当事者意識」を育てる。

校訓の「あかるく」「なかよく」「すこやかに」をもとに、学校教育目標を「人間性豊かなたくましい子どもをそだてる」とし、「子どもに育みたい3つの力」を示した。

- 1、「自分も人も大切に作る力」(「思いやり」「自分が好き」「自尊感情」)
- 2、「自分で考えて行動する力」(「自分らしく」「主体的」「自分の言葉で語る」)
- 3、「自分からチャレンジする力」(「失敗をおそれない」「あきらめない」「やりがい」)を掲げ、子どもも大人も、常に意識しながら、学習や生活など、学校生活のあらゆる場面で、その実現に向けて次の2点について具体的に教育活動を進めていく。

- ・子どもたちの思考を深める「発問」を重視していくことや、子どもたち一人一人の多様性と向き合いながら教職員のチーム力を結集し、子どもに学ぶ大人の姿勢を常に持ち続ける教職員であるよう、互いに教職員同士の自浄作用を高める。
- ・「授業を開く」や「地域を開く」など、学校が常にオープンに家庭や地域等との連携・協働した教育を推進することは必須とし、常に子どもを真ん中にして、学校と家庭と地域をつなぐことができる学校運営に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ◎令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、87%以上にする。
- ◎令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査・校内調査の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和 11 年度末の小学校学力経年調査・校内調査の「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができているか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90%以上にする

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和 11 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 11 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプランに基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ◎小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ◎小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ◎小学校学力経年調査の「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ◎教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月23時間以下とする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

## 大阪市立四貫島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>◎小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>89.2%</td> <td>80.9%</td> <td>80.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>72.5%</td> <td>77.4%</td> <td>81.7%</td> </tr> </tbody> </table>		R5	R6	R7	全体	89.2%	80.9%	80.0%		R5	R6	R7	全体	72.5%	77.4%	81.7%	
	R5	R6	R7														
全体	89.2%	80.9%	80.0%														
	R5	R6	R7														
全体	72.5%	77.4%	81.7%														

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が中心となって運動会や学習発表会などの学校行事を運営し、全児童がめあてをもって主体的に取り組むことで、達成感や成就感を味わうことができるようにする。</li> <li>たてわり清掃、四貫島まつり、クラブ・委員会活動など、異学年で交流する活動を通して、自己肯定感、社会性、主体性を高められるようにする。</li> <li>人権教育年間計画を作成し、系統立てた学習を計画的に行うことで互いの違いを理解し、認め合う児童集団の育成に努める。</li> <li>学期に一回以上、また必要に応じていじめについて考える機会を設け、「いじめはいつでも、どの子にも、どこでも起こりうる」という認識のもと「いじめを許さない学級、学校づくり」を目標に、学校全体で仲間づくりに取り組む。</li> </ul> <p>指標</p> <p>年間2回実施する校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p>年間2回実施する校内調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 (経年：R6→59.4 R7→64.4) ※R7までは校内調査の項目になかったため経年を参考</p>	
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果ではなく、努力した過程を認めるような肯定的な声かけを行ったり、指導者と保護者が連携し、双方から児童のがんばりを認めるような声をかけたりすることで、児童の自己肯定感を高める。</li> <li>たてわり班活動では、活動内容に応じてペア学年での交流が深まるように班編成を工夫し、児童が互いの良さに気づくことができるようにする。</li> <li>学校行事や異学年での活動など、児童が責任感をもって取り組むことができる機会を設けると共に、友だち同士で互いのがんばりを伝え合う活動を行うことで、児童の自己有用感を高める。</li> <li>校内委員会や四貫島の子どもを語る会を設定し、スクリーニングシートなどを活用しながら、教職員全体で児童理解に努める。</li> </ul>	

指標

年間2回実施する校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

R7 最終 低85% 高82% 全 83%

取組 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

【取組内容②】

来年度に向けての改善点

【取組内容①】

【取組内容②】

## 大阪府立四貫島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況																
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>◎小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>38.9%</td> <td>44.8%</td> <td>52.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R5～R7は最も肯定的な回答の割合</p> <p>◎小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>69.7%</td> <td>67.1%</td> <td>75.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R5～R7は最も肯定的な回答の割合</p>		R5	R6	R7	全体	38.9%	44.8%	52.6%		R5	R6	R7	全体	69.7%	67.1%	75.2%	
	R5	R6	R7														
全体	38.9%	44.8%	52.6%														
	R5	R6	R7														
全体	69.7%	67.1%	75.2%														

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で話し合い活動(ペア、グループ、全体)の場を設定することにより、自分の考えを深めたり広げたりすることができる力を養う。</li> <li>自分の考えを、ノートにまとめる力を養う。</li> <li>学習のめあてや振り返りを児童が中心となってい、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</li> <li>授業研究会や研修会を年間計画に基づいて実施し、授業研究後の協議会や研修会を通して、教職員の授業力向上(主体的・対話的で深い学びを実現する授業力)を図る。</li> <li>学力、児童の実態など、個に応じた支援の在り方を研究する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <p>年間2回実施する校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容②【5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたり体を動かすことを楽しむ態度を育成し、児童の体力保持増進のため、体育科の学習や「四貫島体力向上計画」の内容の充実を図る。 「ボールタイム」や「なわとびタイム」、「かけあしタイム」の実施 ゲストティーチャーやトップアスリートを招いた授業の実施</li> <li>生きる力を育む「性に関する指導」年間計画に基づき、養護教諭と連携して取り組むことで、児童が自他の心身を大切にすることを育む。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <p>年間2回実施する校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【取組内容①】
【取組内容②】
来年度に向けての改善点
【取組内容①】
【取組内容②】

## 大阪府立四貫島小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況						
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>◎小学校学力経年調査の「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>◎教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月23時間以下とする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>R7</td> <td>R8</td> </tr> <tr> <td>平均時間外勤務時間</td> <td>23時間29分 (2月)</td> <td>24時間02分 (2月)</td> </tr> </table>		R7	R8	平均時間外勤務時間	23時間29分 (2月)	24時間02分 (2月)	
	R7	R8					
平均時間外勤務時間	23時間29分 (2月)	24時間02分 (2月)					
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を用いた活動(デジタルドリル、カメラ機能、調べ学習、プレゼンテーションなど)を行い、教職員・児童共にICT機器の使用に慣れ親しみ、使いこなせるように努める。</li> <li>児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速に対応する。</li> <li>計画的に学習者用端末を持ち帰り、navimaやSKYMENU、Googleクラスルームなどを活用した家庭学習に取り組む。</li> </ul> <p>指標 年間2回実施する校内調査の「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間の変更、校務支援を活用した会議の効率化を図り、効率よく業務を遂行できるようにする。</li> <li>「ゆとりの日」を週に1回設定し、見通しをもった働き方を行うと共に、自身の働き方について振り返ることができるようにする。</li> <li>勤務開始の時刻を変更している教職員もいるため、それぞれの定時退勤を意識した働き方ができるよう、月に1回「定時退勤の日」を設定する。</li> <li>学期始めや個人懇談会など、臨機応変に5・6時間目をカットする日を設定し、捻出した時間で校務分掌や教材を研究する時間に充てられるようにする。</li> </ul> <p>指標 ・ゆとりの日を、毎週1回設定する。 ・月に1回定時退勤の日を設定する。</p>							
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析							
【取組内容①】							
【取組内容②】							
来年度へ向けての改善点							
【取組内容①】							
【取組内容②】							